

●丹波自然運動公園

前回検証結果	継 続 ・京都府中部地域の活性化に向け、近隣施設や各種施策と連携し、より広域的な利活用を図ること。 ・誘客につながるソフトプログラムなど民間活力の導入を検討すること。
対応・改善策実施状況、取組の成果	○広域的な利活用 ・令和4年度から、菊花展や「ちびっこまつり」等における地域の魅力発信や、マルシェイベントにおける地域食材の使用に重点を置くとともに、SNSを活用した公園の魅力発信にも注力し、京阪神地域など広域からの来園者増加に向けた取組を強化。 ・園内のトレーニングセンターは、国のハイパフォーマンスセンターの連携機関及び日本パラリンピックの協力機関として指定されているが、令和4年度から関西経済連合会によるトップアスリート事業の中核を担い、令和5年度からは府が受託したスポーツ庁事業「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」において中心的役割を担うなど、京都や関西のみならず関西広域のアスリート育成やスポーツ強化の中心的機関としての役割を高め、広域的な利用を誘引し、他の公園施設の利活用も促進。 ○民間活力を導入した新たな取組 ・誘客を図る親子向けイベントとして、令和5年度から「キッズ×スポーツ」をテーマとしたアクティビティーやキッチンカーイベント、「大人も子供もみんなで楽しむ」をテーマとしたワークショップやマルシェイベント等を民間事業者と連携して開催。 ・公園機能の新たな利活用として、令和7年度から KDDI 社×京都サンガFC×京都府の「遠隔サッカー教室事業」に協力し、令和8年4月から第2期の実証事業を実施予定。 ・プロバスケットボールチーム京都ハンナリーズと連携した今後の新規事業や、運動施設の新たな利活用としてキャリアボンド社と連携した「赤外線サバイバルゲーム」の検討を令和7年度から開始。 ・本公園の更なる利活用に向けて、令和6年度から山城総合運動公園の指定管理者の代表企業である（公財）京都府公園公社と、令和7年度から総合型スポーツクラブである（一社）福知山ユナイテッドと、意見や情報交換を実施。
なお残る課題・問題点	◆公園施設全体の老朽化が進行し、今後維持修繕費や基幹施設の改築更新費は増加の見込み。 ◆大規模施設の老朽化及び陳腐化が進み、魅力ある空間利用が不十分で、利用者サービスが低下。

府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等	□民間活力の導入や観光資源の組み合わせで宿泊施設への利用を促せないか。 □近隣施設との連携を進め、地域内での価値向上に期待。 □施設自体は充実しているが、ソフト面のコンテンツの魅力が劣っているため、戦略を考える必要がある。 □府民サービスの低下が生じないように留意しながら、現実的な経営目標を設定し、赤字の解消を図るべき。
京都府の検証結果及び対応方向	要 改 善 <改善方策> ◎宿泊施設の利用に繋がる取組等、魅力あるコンテンツを導入し、価値向上を推進すること。 <今後の対応> ○近隣施設との連携を強化し、合宿目的以外の宿泊需要の獲得により、宿泊施設利用者の増加を図る等、施設の価値向上に取り組む。